

ながえの里だより

医療法人ながえ会 広報誌(第45号)

発行日 令和6年11月20日

発行責任者 西村美智子



日本医療機能評価機構 認定病院
医療法人ながえ会

庄原同仁病院

庄原同仁病院介護医療院

〒727-0203 庄原市川北町890-1

Tel : 0824-72-7300

Fax : 0824-72-7333

e-mail : info@nagaekai.com

URL : <https://nagaekai.com/>



「北地区ふるさと祭にて(庄原市川北町)」 管理部 末藤達也

こちらは安芸高田市から参加されたひょっとこ踊りの方々と、イベントを大いに盛り上げてくださいました。当院も参加し、健康に関するコーナーを設けて地域の方々と交流を図りました。来年以降も、このような活動が続くことを願っています！

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく
仁愛の精神をもって接し、
心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。
職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。
地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

不足と知足

医療法人ながえ会 理事長 村尾文規

2035年には、1日あたり1,775万時間の労働力が不足し、2023年より約1.9倍深刻な労働不足状態に陥るという。政府は、少子化を反転させるラストチャンスだとして対策を講じるというのだが、チャンスはすでに失しているという報告もある。団塊ジュニアの世代(1971~1974)の方々の結婚、出産しやすい環境の整備に失敗し、ベビーブームは起こらなかったことから、出産適齢期の女性人口が減少したことをその理由としている。労働力不足は、すでに、深刻な問題になっている。

1月に発生した能登半島地震で大きな被害が出たにもかかわらず、水道の全面普及すらいまだに終わっていないと聞く。この体たらく、少子化対策が成功するとはとても思えないのだから、それぞれ、この問題に取り組んでいるはずである。

医療機関の一翼を担う当院も、ご多分に漏れず、労働力の不足の渦中にある。その役目を自覚して職員は日夜業務に励んでくれている。緊急事態の発生時には、休暇中のスタッフを召集するという勤務体制がスムーズに遂行され、日常業務が怠りなく遂行されているのは、ひとえに職員一人ひとりが、『人を思いやる気持ちを大切にする』という理念を理解してくれているからだと確信し感謝している。

しかし、労働力の不足が慢性化すれば、仕事へのモチベーションの低下、リフレッシュ時間の制限、一人当たりの労働負荷が健康を害することになりかねない。この事態だけは何としても避けなければならない。不足は補わなければならない。不足とは必要な量に達していないのだから速やかに補充すればいいのだが、単なる数合わせではない。内容が伴わなければならない。介護・医療業界は敬遠される向きもある。どのように向き合うべきか、頭の痛い話である。

不足を補うにあたり、まず、やらなければならないことがある。

職員の意見を集約することである。それには、各々が『ありのままの意見を戦わし、違いを確認し、その違いを容認することである。この作業は、『ひとりの人間としての存在』を認めあうことで、個性を尊重することである。良好な人間関係を築くための基本であると思っている。そこから適切な労働力の必要量が垣間見えることになるはずである。

理念を実践するために必要な職員数とは何人か、これまでにいくつものhow manyを独りで呟いてきた。『適正な従業員の数とは』が問われているのである。不足を補うとは、数合わせに終始するのではなく、内容を豊かにすることを考えなければならない。職員を受け入れるにあたり、既存の従業員は、労働文化をどのように伝えて理解を得るか、良好な人間関係を築くにはどうするかということに腐心することになる。

Less is more (ミース・ファン・デル・ローエ、建築家)、少ないほうが、かえって豊かだという。禅語には知足という言葉がある。ほどほどで満足するという意味だ。不完全が美しいということらしい。不足を適切に補うことの重要性を問うている。

いくつものhow manyの解答に、今も首を振り続けている。いまだに『不足と知足』が頭のなかで明滅している。

悩めどもいまだ灯みえぬまま不足と知足のさなかにありて

人間は働くために生まれている。金儲けをするためではなく、自他の生命に役立つためである(武者小路実篤)。

わたしたちは、そういう仕事を生業としている。悩むなかで、いつか自燈明という灯が瞬くときがくるかもしれない。



「働き続けられる職場づくり」

医療法人ながえ会 看護部長 伊東亜由美



令和6年9月、看護協会の支部研修で、「自分たちの病院の魅力発信」というテーマで研修会が行われました。子育て世代、自分自身がキャリアアップしたい人など、他の病院の発表は、それぞれに合わせて魅力的な内容ばかりで、やりがいがあり、働きやすい職場だと感じました。

当院のスタッフも、終末期患者さまへの関わり、他部門との距離が近く連携が取りやすい、患者さまの笑顔を引き出す催し事、勤務希望が100%叶う、など、当院でしかできない看護をアピールしました。続いて行われたグループワークでは、長く働き続けるために必要なこととして、良好な人間関係を築くことの重要性を指摘されました。



人間関係は自分たちの行動で変わってくるものだと思います。

当院の職員数は108人。100人いれば100通りの考えがあります。仕事を続けるうえで、日常業務でも人間関係はとりわけ大切ですが、一筋縄ではいかないものです。すべて自分の思い通りになることはなく、不満がなくなることはありません。多くのスタッフの意見を聴くこと、聴き続けること、スタッフ一人ひとりの意見を大切にすることが、改善への道に通じると私は信じています。



辛い思い、苦しい思い、胸につかえていることを言葉にするだけでも、心が軽くなるかもしれません。地道な努力が必ず報われると思います。これからも何でも話せる場所を確保していきたいと思っています。良好な人間関係を築くために。

私は、開設当初から多くの方々と関わってきました。職員、患者さま、ご家族に育てていただきながら、病院の発展を見てきました。いつまで現役でいられるかは分かりませんが、これからも看護部のチーム力をより一層強固にすることに微力を尽くしたいと思っています。

今後、ますます高齢者の数は増加し、看護・介護ニーズの急激な高まりに反し、どの医療機関でも医療従事者の確保、定着が困難な状況が続いていくと思います。当院も人手不足で頭を抱えています。このような状況下でも、スタッフはケアの質を落とさず、目まぐるしく患者さまのために、フル活動で頑張ってくれており、感謝する日々です。

コロナ禍で今まで滞っていた、外部研修や外部講師を招いての研修会を活発にし、スタッフ教育を充実させ、心のこもったケアの実践に結び付け、患者さまに還元していきたいと思っています。

また、AIや介護ロボット導入の検討、業務改善、勤務形態の改善、福利厚生の見直しなど、現職スタッフが安心して働ける環境づくりを行い、職員全員の意見を集約しながら、2040年問題に立ち向かっていきたいと思っています。



しかしながら、労働力不足の解消は、現状では難しい状況です。

何よりも大切なことは「人と人との関わり」であると思います。

今一度、人間関係の重要性に目を向け、職員一人ひとりの意見に耳を傾けていきたいと思っています。「聴くこと」が、私に課せられた任務であり、この使命を果たすことで、スタッフの不安や悩みの軽減に繋がると信じているからです。

Event!

ハロウィン☆パーティ開催！



10月31日、毎年恒例の『ハロウィンパーティ』を開きました！

スタッフは仮装をしてみなさんをお出迎え。ハロウィンステッカーを胸に貼ってパーティが始まりました。前日にはみなさんと一緒にかぼちゃを作り、壁面に飾りました。明日はパーティとお知らせしており、始まる前からみなさん「何が始まるのかなあ」とワクワクされていました。

仮装したスタッフの魔法使いの劇。白雪姫のストーリーさながらの劇に大笑いのみなさん。ハロウィン釣りゲームはドキドキしながら釣り上げ、早口言葉や歌など、お題のあそびを楽しみました。最後はダンスやリズム。みなさん笑顔です。帰り際には、仮装をしてハイチーズ！

「ありがとうございます」と、みなさん喜んでおられました。笑顔がいっぱいの和やかなパーティの時間を過ごしました。

パーティは大成功！みなさんの笑い声、明るい言葉を聞くことができ、私も元気をもらいました。これからもみなさんが、少しでも多くの笑顔で過ごせるよう、楽しい行事を実施していきたいと思います。

看護部 レクリエーション担当 山平純子

NewFace

新入職員紹介

高杉 桃果 管理栄養士 栄養課 令和6年8月入職

「今年の8月に入職し、栄養課の方々が温かく迎えてくださりました。部署を超えて、たくさんの方々が話しかけてくださること、大変嬉しいです。病院の管理栄養士として働くことが夢でしたので、頑張りたいと思います」

清水 謙一 理学療法士 リハビリテーション科 令和6年9月入職

「趣味が身体づくりで『昨日の自分を超越』を日々の目標に、トレーニングに励んでいます。トレーニングで培った精神力や理学療法士としての今までの経験がここでも活かせるように『さらに向こうへ プルス・ウルトラ！』の精神で頑張ります！！」



編集後記

患者様に良いサービスを提供するには、まずは職員が生き生きとしていなければと、基本方針の中に“職員の満足”を謳っています。看護部の取り組みは良好な人間関係を作り、良いご縁を導いてくれると信じています。理事長の“不足と知足”は、すべては捉え方が現状を変えていくものだと思いました。「儲けるとは＝信者を増やすこと。お金ではなく、『この人でなければ、ここでなければ』、というファン作りである」とある講演会で聞きました。良好な人間関係を築くことが、ファンを作り、良いご縁につながり、それを循環させていくことが、患者様をはじめ周りの人たちの幸せに繋がっていくものだと思っています。

医療法人ながえ会 事務長 西村美智子